

# ドル/円相場のトレード戦略

## ■ 中長期展望

昨年末のトランプ・ラリーによるドルの急上昇に対する調整が本年初から続き、2月第2週には111円台半ばまで下押しする動きとなりました。

### 【ドル/円 週足】



その後、米国の利上げを織り込む形で115円台を回復しましたが、3月のFOMCで利上げが実施されたものの利上げ見通しが変わらなかったことに対する失望で再びドルが軟調な動きとなっています。

さらに、トランプ大統領が大統領選の公約に掲げていた医療保険制度改革（オバマケア）の撤廃・見直しが頓挫したことで政権の政策運営への不透明感が高まり110円割れを試す展開となりました。トランプ政権下での財政刺激策に対して大きな期待が持てなくなった場合には、ドルの大幅上昇というシナリオを見直す必要があるでしょう。

その意味では、引き続き、トランプ政権の経済政策の行方は最大の注目材料でしょう。

しかし、米国のファンダメンタルズを見るとほぼ完全雇用で経済は好調であり、FRBによる年内あと2回の利上げが予想される状況に変はないことを考えると、110円を割り込むような水準はドルの過小評価といえます。

したがって過度な期待の剥落によるドル売りが一巡すれば、押し目買いによりドルの下値は支えられ、再び上昇していくものと思われます。

ドルの上値がどこになるのかは、トランプ政権の財政政策しだいであり、政策発動が不発であった場合の上値のめどは115円水準、公約より後退した場合は120円水準、公約を満たした場合は

# ドル/円相場のトレード戦略

125円水準を想定しておきたいと考えます。

## ■ 短期展望

先週は、前週金曜日の医療保険制度改革法（オバマ・ケア）代替法案の採決見送りを受け、トランプ政権の政策運営への懐疑的な見方が強まり、ドル/円は110円10銭の安値をつけました。

しかし、110円を割り込むことがなかったこと、その後FRB高官の2017年中の3回～4回の利上げを示唆する発言が続いたことでドルは112円台まで値を持ち直しました。

ただし、ドルの戻りは限定的で111円台半ばで週を越える動きとなっています。

今週も、ドルの上値が重いものの、110円を割り込むには新規材料が必要であり、新たな材料無しには先週のレンジを突き抜けることは難しいように思われます。

したがって、今週はISM製造業・非製造業指数や雇用統計など米国の経済指標をにらみながら110円～113円程度でレンジ相場を形成することが予想されます